



## 全校集会で話したこと（震災から学ぶ日）

先月の2月13日に大きな地震がありました。震度6でした。大きかったですね。驚いた人・怖かった人、いろいろいたのではないかと思います。あの地震が来たとき、ちょうど10年前を思い出しました。

10年前の3月11日午後2時46分に、東日本大震災が発生しました。

あの時はすごい地響きとともに、いつまでも大きな地面のゆれが約6分近く続きました。いったん収まったかと思っていると繰り返し、繰り返し大きな揺れがやってきました。学校の校舎や体育館も大きく揺れて、壊れてしまうのではないかと思うくらい大きな地震でした。

地震が収まると、海では大きな津波が発生しました。建物や人々が大きな津波にあつという間に飲まれてしまいました。

この東日本大震災により2万人近くの尊い命が亡くなりました。そして、未だに2千人以上の方々が行方不明だそうです。

福島県は、地震や津波の後さらに、東京電力原子力発電所の事故（原発事故）が発生して、建物が水素爆発してしまいました。そして、放射線の影響を心配し、事故直後約16万人の人々が避難しました。10年経った今でも約3万6千人の人々は自分の住んでいた地域や家に住めず、避難している状況です。

本校の図書室の廊下には東日本大震災の災害の様子を写真に収めた本が置かれています。震災当時の被害の大きさや人々の苦労をうかがい知ることができます。ぜひ、見てほしいと思います。

東日本大震災は、よく1000年に一度の大震災だといわれます。

だったらもう大丈夫、こんな大きな地震はもう来ないと思うかもしれませんが、そうではありません。私たちは、この東日本大震災から多くのことを学び、今後に生かさなければなりません。

東日本大震災の教訓として、特に3つのことが大切だといわれています。

### 1 自分の命は自分で守る

避難訓練などでも話していますが、人に頼るのではなく、最後の最後は自分で自分の身を守らなければなりません。

### 2 災害に備える

災害は地震だけではなく、台風や火災などいつどんな災害が発生するかわかりません。昨年も台風など大雨で大きな被害がでました。いつ災害が起きるか分かりません。そのために普段から災害に備えておくことは大切なことです。

### 3 人と人との絆を大切にする

人が困ったときに助けになるのは、家族であり、友達であり、周りの人たちです。お互いが助け合えば、困難なことにぶつかっても乗り越えることができます。だから、普段から、人と人との絆を大切にしなければなりません。

さて、この東日本大震災が発生して、家を失い、家族を失い、悲しい思いをした人たち・苦しい思いをした人たちがたくさんいます。10年経った今でもその悲しみやつらさが癒えない人たちがいます。

また、大熊町や双葉町、富岡町、浪江町などの浜通りにある小学校のいくつかは、10年たった今でも地元のふるさとの戻れなかったり、学校が地元と避難先とに分かれていたりする不便な状況が続いています。

さらに、「風評被害」といって福島県産の農産物（米や野菜やくだもの）や魚介類などは放射線に汚染されているのではないかという間違った捉え方をされて、福島県産のものを買ってくれない人や輸入しない国などもあり、生産している農家や漁師の人たちの中には困っている人たちがたくさんいます。

福島の復興は少しずつ進んでいるといいますが、こうした悲しみやつらさが癒えない人たちや不便な状況に置かれている子どもたち、そして「風評被害」がある限り、福島の復興は道なかばというしかありません。本当の復興を果すには、まだまだやらなければならないことがあります。

そして、福島の復興を成し遂げるには、皆さんの若い力が必要です。皆さん自身がこの福島をよりよくしていく担い手にならなければいけません。そのためには、今やっていることをしっかりとがんばりましょう。